

製品名: GUF1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab11860**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率 IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:50-1:200, ELISA 1:10000-1:20000

分子量

抗原情報

遺伝子名	GUF1
別名	GUF1; Translation factor GUF1; mitochondrial; Elongation factor 4 homolog; EF-4; GTPase GUF1; Ribosomal back-translocase
遺伝子 ID	60558.0
SwissProt ID	Q8N442
免疫原	抗血清はヒト GUF1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 421-470

背景

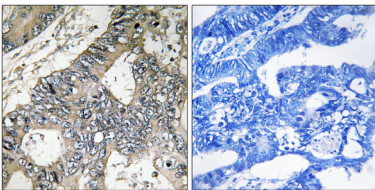
この遺伝子は、ミトコンドリアタンパク質合成中に伸長リボソームの逆転座を引き起こす GTPase をコードする。このタンパク質

は、他の GTPase には見られない高度に保存された C 末端ドメインを有し、tRNA の結合を促進する。コードされているタンパク質は、ストレスの多い最適ではない条件下でのアミノ酸の誤取り込みを防ぐと考えられている。この遺伝子の対立遺伝子変異は、早期乳児てんかん性脳症-40 と関連付けられている。選択的スプライシングにより、複数の転写産物バリエーションが生じる。 [RefSeq 提供、2016 年 9 月]類似性: GTP 結合伸長因子ファミリーに属する。LepA サブファミリー。、

研究分野

-

画像データ



GUF1 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト大腸癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像。